

【概要】

平成24年度 民間住宅ローン利用者の実態調査
【民間住宅ローン利用者編】(第2回)

1. 調査の概要

調査対象期間(平成24年7月～平成24年10月)に民間住宅ローンを借入された方を対象とし、利用された住宅ローンの金利タイプ別や住宅ローン選びに関する事項について、インターネットによるアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめたものである。回答数:1126件。

2. 調査結果の主なポイント

(1)「変動型」利用割合は53.6%に減少

- ・「変動型」は、今回の調査対象期間(平成24年7月から平成24年10月)を通しての利用割合が53.6%(前回調査:54.6%)に減少している。
- ・「固定期間選択型」の利用割合は、今回の調査対象期間を通しての割合が24.4%(前回調査:22.2%)と増加している。
- ・「全期間固定型」の利用割合は、今回の調査対象期間を通しての割合が21.9%(前回調査:23.2%)に減少している。<p2>

(2)今後1年間の住宅ローン金利見通しは「現状よりも上昇する」が小幅減少

- ・今後1年間の住宅ローン金利見通しについては、「現状よりも上昇する」が20.8%(前回調査:21.7%)と小幅減少し、「ほとんど変わらない」も66.2%(前回調査:68.2%)と小幅減少している。<p9>

(3)住宅ローン選択の決め手は、圧倒的に“金利の低さ”

- ・住宅ローンを選んだ決め手は、「金利が低いこと」とする回答が71.7%と圧倒的に多い。次いで、「住宅・販売事業者(営業マン等)に勧められたから」「繰上返済手数料が安かったこと」の順となっている。<p14>